

福島県立総合衛生学院

令和4年度学校関係者評価結果

- 1 会議名称 福島県立総合衛生学院学校評価専門部会
- 2 実施期日 令和4年7月11日(月)～令和4年7月25日(月)
- 3 実施方法 令和3年度学校関係者評価に対する取組状況〔資料1-2〕及び令和3年度学校運営評価報告書を外部評価者に郵送し、御意見をいただき事務局にて集約した。(新型コロナウイルス感染症対策として外部評価者を招集せず書面で御意見をいただいた。)
- 4 外部評価者 3名
公益社団法人福島県看護協会 会長 今野 静 氏
一般社団法人福島県歯科衛生士会 会長 丹野 直子氏
一般社団法人福島県臨床検査技師会 会長 山寺 幸雄氏
- 5 結果
 - (1) 令和3年度学校関係者評価に対する取り組み状況について
 - ア 総合評価
 - ・外部評価者からの意見を継続的に取り入れている。
 - ・今般のコロナ禍の厳しい環境の中での教員の努力に敬意を表する。
 - イ 分野別評価 t
 - Ⅲ 教授・学習・評価
 - ・教員の自己評価は、令和2年度と比較して15項目アップしているため、教員として令和3年度における指導意欲・内容が高かったことを窺い知ることができる。
 - また、教員と学生評価の同じ項目の比較において、すべての項目で学生評価が高得点を示していることから、令和3年度における指導努力は、学生側にも十分評価され伝わっている。

(2) 令和3年度学校運営評価報告書について

ア 総合評価

- ・各分野の評価結果が8分野のうち7分野において、ほぼ適切以上の評価を得たことは素晴らしい結果である。

イ 分野別評価

II 教育課程

- ・限られた教職員の人数で、安心して学べる環境を整える努力がされていることがわかる。

III 教授・学習・評価

- ・全教員の自己点検・自己評価に関する分析がなされている。
- ・教員の自己評価と学生の授業に関するアンケートの結果から、全ての項目に学生が高い評価であるのは、教員が真摯に学生と向き合い取り組んだ結果である。

VII 地域貢献、国際交流

- ・評価報告書にも述べられているとおり、コロナ禍による活動自粛が影響したことは否めない事実であり、致し方ない。
- ・限られた教職員の人数で、過密なカリキュラムをこなしながらの地域貢献や国際交流へ取り組む難しさなどの課題が明記されている。

VIII 教職員の教育と研究活動

- ・限られた教職員の人数で、過密なカリキュラムをこなしながらの研究活動の限界などの課題が明記されている。

ウ 令和3年度重点目標に対する評価

- ・新型コロナウイルス感染症による影響等が評価されている。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大が収束しない環境において、生活様式も変化し、また、学生のモチベーションを維持するのが難しい中、学校側が高い意識をもって学生の教育に臨まれたことが高評価に繋がっている。